

振り返り結果概要

令和 6年 2月 27日

太田川水防災タイムライン検討会

1)振り返り検討会の実施概要

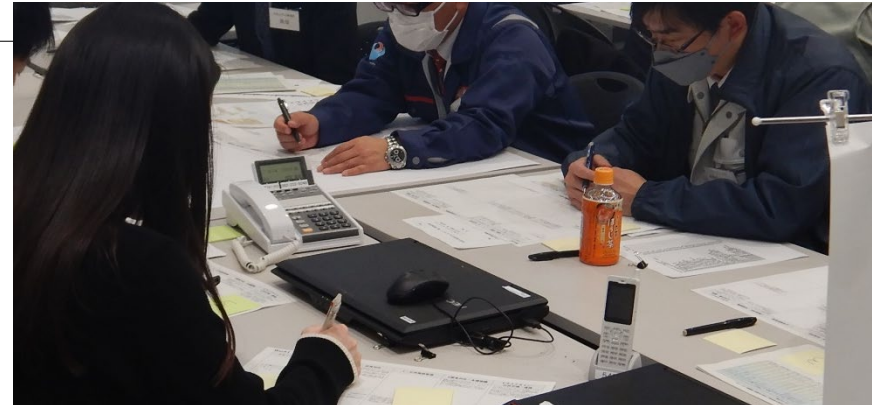
- 令和5年度の出水対応について、**タイムラインの運用状況**や**気象概況等**を確認するとともに、事前に実施したふりかえり様式・意見照会様式の整理結果をもとに「令和5年7月5～10日の前線による大雨」において「①災害対応でうまく行ったこと」、「②災害対応の問題点・課題」、「③改善すべきこと」をグループでふりかえりを実施 (Work1) し、その結果を全体に共有 (Work2)

Work1の手順

Work1

グループ	A: 情報・指揮	B: 住民対応	C: 公共施
①災害対応でうまく行ったこと	<p>タイムライン各機種の行動項目を記載しているため、それ以外の行動を削除できた。(大田川河川事務所 法務課)</p> <p>メーリングリストを通して各機種の連絡窓口とつながりができた。(大田川河川事務所 法務課)</p> <p>気象情報の発信、ホットライン対応については協議。(広島地方気象台)</p>	<p>事前に、気象情報等の情報収集に努めた上で、学校への対応(後援)について資料を作成しており、当日の対応を速やかに行うことができた。(広島県教育委員会 健康教育部)</p>	
②災害対応の問題点・課題	<p>今年度は顕著な大雨事例がなかったが、令和5年度のような事例ではマンパワーが不足。(広島県)</p> <p>中小河川の状況についても情報共有が限られるとされた。(大田川河川事務所 法務課)</p> <p>避難情報を発令しても避難は数人程度が確認されたため、円滑な対応ができた。(安芸太田町)</p>	<p>1. ①②について自グループの内容を読み上げ</p> <p>3. 加筆・修正が必要ななら付せん書き込んで貼る</p>	<p>事前に確認するタイプだと考えているが、対応が困難な災害に対しては、気象状況により、危険状況に向かうには、リスクが高いと思える。(山形砂防事務所)</p>
③改善策	<p>4. つぎに③改善策を付せん書いて貼り込む</p>		

Work1 (ふりかえり)の様子



Work2 (全体共有)の様子



- 「顔の見える関係」づくりのためグループを変更し、「**タイムライン防災の運用を考える**」として、「①成果（よかったこと）」、「②運用に関わる課題」、「③今後に向けた要望」について意見交換を実施（Work3）し、全体に共有

Work 3 の様子



全体共有の様子



2)振り返り結果の概要

- タイムラインの改善に向けて、振り返り検討会におけるWork3（①成果（よかったこと）、②運用に関わる課題・問題点、③今後に向けた要望）の各グループの意見を事務局で分類・整理

カテゴリー	①成果（よかったこと） まとめ
1. 平時における引き継ぎや未経験者の対応の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> • 平時でも対応手順が見える化されている • 誰にでも分かりやすく行動ができる。 • 人事異動後、特に有効に感じた
2. 情報発信・収集の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> • ダム操作規程に基づくダム情報の確実な発信 • 気象解説が有効 • タイムライン支援システムに見たい（見る）情報がある程度まとまっており、一つの画面で同時に見るのは良い
3. 他機関の対応の把握や顔の見える関係による連携強化	<ul style="list-style-type: none"> • 顔の見える関係ができた • 他の関係機関の動きが把握できてよかった（自分の動きの参考に） • 現在のステージにおいて他機関の行動主体が一覧でわかるため分かりやすい • 他機関の持っている情報やノウハウを共有する機会になる • やるべきことに悩まず連携できる
4. 事前の準備・体制確立の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> • 事前の準備 • 体制の構築を行うことができた • 事前対応がスムーズ • 各機関の役割分担が明確になって防災体制の構築ができた
5. 災害対応のスイッチとしての機能	<ul style="list-style-type: none"> • 特に台風でタイムライン運用開始のメールが来ることで、災害に対するスイッチが入る • TLの行動（ステージ）がメールで届くのはリマインドとしてありがたい
6. 対応の抜け漏れ防止	<ul style="list-style-type: none"> • タイムラインを作成することにより、忙しいときの漏れ、抜け落ちを防ぐことができる
7. 災害対応の迅速化	<ul style="list-style-type: none"> • 事前に防災計画を作成、周知することにより、行動の迅速化が図れる • あらかじめ次の行動を決めておくことで、迷うことなく行動に移れる

カテゴリー	②運用に係る課題・問題点 まとめ
1. 情報の共有と関係機関の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災情報の把握が困難 ・ 出水対応に必要な様々な情報を迅速に収集するのが困難 ・ 砂防部局との平時からのつながりが無いため、出水時にどのような連携が必要かわからない ・ タイムライン関係機関の活動状況がわからない ・ 平時からの情報共有、検討会の場で全員がそろうことが難しい
2. タイムラインステージ通知	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島市では区ごとに体制設置、避難情報の発令のトリガーが異なるため混乱しがち ・ 実際に被害が発生した場合、その対応におわれタイムラインを途中から注視できない場合がある ・ 関係機関へのTL立ち上げとステージ移行の周知の遅れ ・ ステージ移行通知に労力が必要
3. タイムラインの改良・有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に活動した場合、各機関マニュアルとタイムラインが不整合 ・ 訓練不足によりタイムラインが有効活用できていない ・ マルチハザード（土砂、洪水、高潮）であるため関係機関の体制に差が生じる ・ 中小河川の情報が無い ・ 国・県河川流域一帯での取組が必要 ・ 前線性の降雨への対応が難しい ・ ステージが突然変化したときに下のステージで実施すべきだった対応の取り扱い ・ タイムラインステージ通知が、他機関の出水対応にどの程度役立っているか不明 ・ ダム管理者としてTL対応は自然に行っているが、下流河川への影響に考慮できた対応となっているか ・ タイムラインステージのトリガーで行動を開始するわけではないので、タイムラインの直接的な活用が困難 ・ 「土砂災害警戒情報の発表」がステージ4のトリガーだが、区で避難指示を発令するタイミングとは異なる（2h前を使う）
4. 迅速な対応に向けた備え	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイムラインの高いステージでの対応の経験がほぼなかったので、ちゃんと対応できるか不安 ・ タイムラインを自分のこととしてとらえられていない ・ 区対策本部に浸透していない ・ マンパワーの不足による対応（報告）が遅れる（出来ない） ・ 公共施設を管理するという性質上、タイムラインをあまり活用できていない ・ リエゾンの派遣タイミングや活用方法が不明確 ・ 排水ポンプ車の出動要請を受けた際の対応（資機材準備など）
5. 住民の避難	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への周知
6. 監視機器の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ カメラなどのソフト対策の補助金支援の有無を知りたい

カテゴリ分け	今後に向けての要望 まとめ
1. 情報の共有と関係機関の連携	①様々な情報の円滑な共有（各機関の活動や被害状況等） ②平時からの関係機関のつながり強化
2. タイムラインステージ通知	③ステージ移行通知の手段を簡素化（システムの有効活用）
3. タイムラインの改良・有効活用	④各機関のマニュアルとタイムラインの整合 ⑤タイムラインの改善と習熟 ⑥流域を対象としたタイムラインの検討（マルチハザード） ⑦タイムラインステージが移行した際のルール化 ⑧タイムラインの行動内容、情報提供のタイミング・内容の精査
4. 迅速な対応に向けた備え	⑨排水ポンプ車の出動要請に向けた日頃からの備え（訓練） ⑩人員不足の解消 ⑪タイムラインに基づく、災害を想定した訓練の実施 ⑫リエゾンの派遣タイミングや活用方法の理解（訓練）
5. 住民の避難	⑬避難率を高めるための取組推進 ⑭地域住民への適切な周知
6. タイムライン支援システムの拡充	⑮タイムラインシステムの改良（組織ごとの必要なCCTV、水位を一覧で表示、中小河川の情報表示等） ⑯タイムラインシステムの改良（画面サイズの変更） ⑰タイムラインシステムの改良（情報交換機能）
7. 監視機器の準備	⑱カメラなどのソフト対策の補助金支援の紹介

「今後に向けての要望」をもとに、「次第3.タイムラインの改善に向けて」において具体的な改善事項を抽出・整理